住宅確保要配慮者のための機能連携を生かした空き家利活用スキームの構築 （あんじゅうサポートクラブ）

課題	高齢者･障害者等住宅確保要配慮者の増加に伴い、その住まい探しは困難になってきている。一方で空き家ならびにその予備軍（阪神大震災後建築の住宅オーナーの高齢化）は増加している。
目的	ボトルネックとなる空き家オーナーの理解を深め、**住宅確保要配慮者の円滑なる住まいの確保に向けて住宅･福祉専門家および官･学連携のもと、空き家を利活用した仕組みの構築をはかる**
取組内容	①課題の抽出･整理及び検討②ミニセミナー＆懇談会の実施③啓発セミナーの実施④総合相談窓口の設置⑤ボランティア体制の構築⑥空き家利活用手引書の作成⑦物件確保とモデル事業
成果	①貸主向け及び支援者向けの住宅確保要配慮者のための空き家利活用手引書の作成②総合相談窓口の設置及び相談会開催③啓発セミナーの実施④空き家受入れ機構の設置

大学教授を招きミニセミナー＆懇談会を6回開催

啓発セミナー1回開催

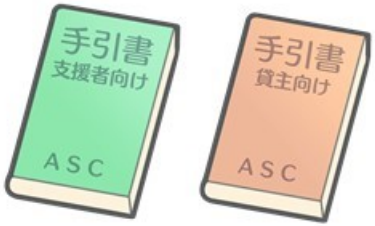
西宮市瓦木在宅療養相談支援センターとの共催

総合相談窓口の設置

相談マニュアルの作成

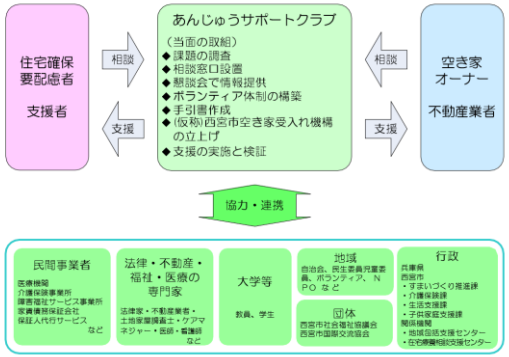
相談会を3回開催し、9件の相談実績

住宅確保要配慮者のための空き家利活用手引書作成



貸主向けと支援者向けの2種類を作成

あんじゅうサポートクラブのネットワーク



あんじゅうサポートクラブの特徴

構成メンバー（ケアマネージャー・精神保健福祉士・社会福祉士・保育士・宅建士・不動産コンサル・空き家相談士・行政書士・司法書士）が築いた地域と行政との太いパイプによる「暮らしの支援」と「住宅の確保」を推進する